

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年2月28日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.11～12 No.58～No.66を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
1	音楽施設は不要。予算を若年・子育て世帯住み替え助成金に回してほしい。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、基本構想および基本計画を策定したところでございます。 本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様へ豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年 1月16日
2	市民生活が困窮化している中で、多額の市税を使って音楽ホールを整備する必要があるのか。市内の他施設の稼働率も高くない状況で元が取れるのか。財政健全化を公約に掲げているのであれば、市民がより必要としている支援をよく聞いてほしい。		
3	生活がひっ迫しているなかで、さらに税負担を負わせて整備を進めることは到底納得できない。		
4	多額の費用をかけてホールを作るより物価高対策を優先すべき。		
5	巨額の税金の無駄遣いであり計画に断固反対。本当に必要なところに必要な支援を。		
6	音楽ホールより子どもの室内遊び場をもっと整備してほしい。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様へ豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 とりわけ、乳幼児を含むこどもたちや若い世代が文化芸術や災害文化に触れ、感性や創造性を育む機会を創出することを重視し、多様なプログラムを展開することを計画しています。	令和8年 1月16日
7	どれくらいの経済波及効果を見込んでいるのか。たった2000人規模の音楽ホールは年に何回使うのか。 複合施設を整備するのであれば、5大ドームに並ぶ東北のドーム建設を希望する。	本施設は、毎年の施設運営・事業展開によって年間約54万人、約47億円の経済波及効果が見込まれると推計したところでございます。さらに、魅力的なコンテンツの創出や青葉山エリアの様々な資源と連携したエリア全体の魅力向上、建築の魅力の発信などの取組みにより、これこれとまらない地域活性化や交流人口・関係人口拡大の効果をもたらすことを目指してまいります。 また、仙台市内には、これまで大編成のオーケストラ公演、さらにそれに合唱が伴った大型公演などに適した施設がなく、このような公演を可能とする舞台設備と優れた音響性能を有する2,000席規模の大型ホールが長年求められておりました。 ドームで行われる規模のコンサートとは別に、ホールを会場とするコンサートや舞台芸術公演のニーズは多岐にわたり、「仙台市内で会場が取れずイベントを実施できない」というお声を多く頂戴しているところでございます。令和2年に行ったホールの需要想定調査においても、十分な需要が見込めることを確認しております。 引き続き、市民の皆様や専門家の意見を伺うとともに、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら、整備を進めてまいります。	令和8年 1月16日
8	建設費が高騰するなかで整備を進めることに納得できない。建設費に対する収益も少ない。経済波及効果は県民によるものが中心で、県外や外国人によるものは少ない。また検証にあたっては専門家の意見と市民の意見を取り入れてほしい。中途半端なホールを整備するなら、コンサートなどで多目的で多くの人を収容する大きなドームを建設してほしい。		
9	多額の費用を音楽ホール建設に充てるより、中心市街地の活性化や子ども・若者向け施策、物価高対策に予算を使うべき。また、音楽ホールはすでに複数施設がある中で採算が取れるのか。既存施設の老朽化が問題なのであれば改修すればよい。ドームを作り、大物アーティストがライブをすれば経済効果も大きいので、ドームを作ってほしい。		
10	建設を止めて欲しい。音楽堂も震災遺構伝承もなぜ必要なのか。箱物を創って建設需要を増やすために莫大な市民税を使わないで欲しい。その後の維持コストも馬鹿にならない。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様へ豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 中心部震災メモリアル拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ、内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと複合整備することを決定したものです。 事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年 1月16日
11	多額の税金を使って複合施設を整備は不要。また、災害メモリアル拠点も市内複数個所に存在しており、新たに整備すると維持費もかさむ。市民に有益な税金の使い道を考えてほしい。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様へ豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 震災メモリアル拠点については、平成26年に仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会からの提言を受け、「津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点を連携し、震災の経験と教訓を継承する」との方針を定めました。沿岸部の拠点として、せんだい3.11メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校を先行して整備し、中心部の拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ、内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと複合整備することを決定したものです。沿岸部と中心部の2拠点体制を活かしつつ、文化芸術と連携した防災力向上の取組などを検討し、次の災害に備え、乗り越える文化の醸成に努めてまいります。 事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年 1月16日
12	市民ワークショップは平日の昼間開催と聞いており、高齢者や障害のある市民など、多様な市民意見を集める場、対話する場を設けて欲しい。	令和7年6月から8月の土日祝日の日中に市民ワークショップを開催し、小学生から高齢者までご参加いただいたところです。 中間案を公表した令和7年11月以降、市民活動団体や障害者団体の方との意見交換の場を設け、本施設に関するご意見を伺っていただいているところであり、今後も機会を捉えて、多くの方の意見を伺ってまいります。	令和8年 1月16日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年2月28日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.11～12 No.58～No.66を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
13	<p>・設計者選定時の案からの変更点として大ホールが独立した配置となり、複合施設としての目的や藤本氏が企図した開かれた広場というコンセプトから離れているように思われる。大ホールホワイエはロビーと連続した形とし、有料コンサート開催時のオペレーションには可動壁やロープ等で対応可能ではないか。現状案の大ホールのホワイエは狭苦しく、トイレの行列で埋まりかねない。東京文化会館のように広いロビーで歓談と交流が広がるよう、工夫してほしい。</p> <p>・1階の大ホールのトイレは男女ともホール北側(ステージ上手)に配置されているが、ホールの上手側にも設置してほしい。もしくは今の男性トイレを必要に応じて女性用に開放できるよう通路や可動壁を設けてほしい。その代わり男性用はロビーにあるトイレを拡充しロビーに人を誘導してはどうか。行列なしのトイレを目標にしてほしい。</p> <p>・食事のできる「レストラン」ではなくて居心地の良いサードプレイスとしてのカフェが必要である。多賀城市立図書館に併設されているスターボックスを見ても集客力は絶大だ。設計段階から同社と協働し新しいスタイルの店舗の展開も含めて検討すべき。</p> <p>・クロークに要する人手を考えるとすれば、衣服を入れられるタイプの無料コインロッカーの方が利用が多いのではないか。</p>	<p>大ホールホワイエとロビーにつきましては、公演を主催される方々より、公演時のセキュリティ等の観点から固定の柵または壁で明確に区切ることを望む声をいただいているところございます。</p> <p>トイレの混雑軽減の視点は重要であると認識しており、このことを含めホワイエ内がより快適な場所となるよう、空間のあり方や機能配置について引き続き検討を行ってまいります。</p> <p>また、カフェ、クロークのあり方につきましても、今後の検討の参考とさせていただきます。</p>	令和8年1月16日
14	<p>学生時代、施設職員が特別にベルリンフィルのリハーサルの見学と、当日券を安価に販売してくれて感銘を受けた。このホールも日常的に人の居場所となるような良質な現代建築になると良い。</p>	<p>いただいたご意見を参考に、多くの方が気軽に訪れる施設、未来を担う若い世代を育む施設を目指し、運営や事業のあり方の検討を進めてまいります。</p>	令和8年1月16日
15	<p>仙台駅前の旧さくらの百貨店の跡地活用、こどものための施設を整備するよりも先に音楽ホールを整備する理由がわからない。ホールを整備するのであれば、楽天球場をドームにするほうが良い。</p>	<p>仙台市内には、これまで大編成のオーケストラ公演、さらにそれに合唱が伴った大型公演などに適した施設がなく、このような公演を可能とする舞台設備と優れた音響性能を有する2,000席規模の大型ホールが長年求められておりました。ドームで行われる規模のコンサートとは別に、ホールを会場とするコンサートや舞台芸術公演のニーズは多岐にわたり、「仙台市内で会場が取れずイベントを実施できない」というお声を多く頂戴しているところでございます。令和2年に行ったホールの需要想定調査においても、十分な需要が見込めることを確認しております。</p> <p>なお、こどものための施設といたしましては、西公園への屋内遊び場の整備に向け基本計画の策定を進めているほか、本施設においても乳幼児を含むこどもたちや若い世代が文化芸術や災害文化に触れ、感性や創造性を育む機会を創出することを重視し、多様なプログラムを展開することを計画しています。</p>	令和8年1月16日
16	<p>複合施設整備よりも、自然環境保護、熊対策、メガソーラー中止のために予算を優先して使うべき</p>	<p>本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、基本構想および基本計画を策定したところでございます。</p>	令和8年1月16日
17	<p>建設に反対。一部の市民の希望を叶えるために巨額の予算を使い、箱物を作るのはやめてほしい。市民にいったいくらの借金を背負わせるつもりなのか。</p>	<p>本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。</p>	
18	<p>建設費が高騰している現在において子どもたちに負債を残す整備はやめてほしい。それよりも物価高対策や減税対策など、困窮者対策の方が優先度が高い。</p>	<p>事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。</p>	
19	<p>これ以上の新たな施設整備は不要である。整備費用があるのであれば、光のページェントの点灯時間を早めたり、青葉通りにページェントを復活した方が市民は喜び、集客も伸び、仙台は活性化するのはではないか。</p>		
20	<p>市民説明会において質疑応答の時間が不十分だった。質疑応答中心の市民説明会を再度開催すべき</p>	<p>市ホームページ上の意見募集フォームに寄せられたご意見につきましては、随時、市の考え方を回答してまいります。</p> <p>また、今後につきましても、市民の皆様からのご意見を直接伺う多様な機会を設けてまいります。</p>	令和8年1月16日
21	<p>・市民ワークショップの取り組みは評価するが、本来は施設計画ではなく事業運営計画のために活かされるべき活動だ。将来の事業運営に携わる組織が責任をもって関わり、きちんとディレクションしていかないと、ただの過渡期の雰囲気作りで終わってしまう。事業についての検討成果を施設計画に反映し、施設計画での知見を将来の運営に反映できるよう、組織づくりを急いでほしい。</p> <p>・災害文化の創造と発信のためには、もっと層の厚い事業を体系的に展開しそれを言語化していくと同時に、伝承とアーカイブという「根の部分」をしっかりさせてこそ実を結ぶ。そのためには、災害文化をきちんと言語化でき、かつ地道な蓄積と将来を見据えた発信力を支える専門家の専従が不可欠である。</p> <p>また、「根の部分」のための作業環境、例えば被災物を扱う調査保管や搬出入ルートがきちんと想定できているか心配だ。</p> <p>・災害文化の発信が押し付けと捉えられないよう空間的な配慮を検討することも必要だ。</p> <p>・2000人のキャバを減らしてもパイオルガンは必要。パイオルガンの荘厳さは、震災メモリアルにふさわしいシンボルとして大きく貢献するのはではないか。</p>	<p>市民ワークショップでいただいたご意見は、施設設計だけでなく、開館後の事業展開にも生かしてまいりたいと考えております。指定管理者となる団体の選定は今後進めてまいります。選定後は指定管理者と共に管理運営に関して検討を進めてまいります。</p> <p>災害文化の創造と発信にあたっては、中心部拠点にかかるこれまでの検討や今回いただいたご指摘も踏まえ、専門家をはじめ多様な方々のご意見を伺いながら、事業や運営のあり方等を検討してまいります。</p> <p>本市施設の大ホールは、多様な公演のニーズ、市民の皆様の方々の多面からのご要望に最大限対応すべく、転換型の2,000席規模のホールとしたところでございます。このため、パイオルガンの設置は予定しないところでございますが、生の音源に対する優れた音響性能を持ち、高く評価されるホールの実現を目指してまいります。</p>	令和8年1月16日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年2月28日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.11～12 No.58～No.66を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
22	<ul style="list-style-type: none"> ・中途半端な場所に、中途半端な規模・使用目的の施設は不要。 ・震災を語り継ぐためには、被災した場所で行い、現地に足を運んでもらって感じてもらうことが大切だ。メモリアル拠点を作っても心は動かされない。 ・コンサートができる収容人数ではないため、整備費に対して見込める収益は見合わない。市内各所にホールがすでにあるため、既存施設を快適化させることがコストパフォーマンスの観点からも推奨される。 	<p>伊達政宗公が仙台城を構えた「仙台はじまりの地」とも言える青葉山エリアは、豊かな自然に恵まれるとともに文化、歴史、学術資源が集積し、本市のアイデンティティを象徴的に示す場所です。この場所に本施設が立地することにより、エリアとして国内外から多くの人を惹きつける求心力となり、仙台の魅力や発信力の向上に貢献できるものと考えております。また、都心部にも隣接し、大きな経済波及効果を創出できるものと考えております。</p> <p>震災メモリアル拠点については、平成26年に仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会からの提言を受け、「津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承する」との方針を定めました。沿岸部の拠点として、せんだい3.11メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校を先行して整備し、中心部の拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと複合整備することを決定したものです。沿岸部と中心部の2拠点体制を活かしつつ、文化芸術と連携した防災力向上の取組などを検討し、次の災害に備え、乗り越える文化の醸成に努めてまいります。</p> <p>また、仙台市内には、これまで大編成のオーケストラ公演、さらにそれに合唱が伴った大型公演などに適した施設がなく、このような公演を可能とする舞台設備と優れた音響性能を有する2,000席規模の大型ホールが長年求められておりました。</p> <p>令和2年に行ったホールの需要想定調査において、十分な需要が見込めることを確認しております。</p>	令和8年1月16日
23	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県民会館が2000人規模の劇場型ホールになる計画であることを前提にすると、「舞台は可動式でなく、サウンド型固定とすべき」「客席は1500人以下とすべき」 ・宮城県民会館が、舞台芸術にも適した劇場型のホールになるのであれば、仙台市の新ホールはクラシックに特化したサウンド型単機能のホールとして、建設費の低減を図るべき ・藤本氏は説明会中に「講演」という用途にも言及していたが、音響の豊かな音楽ホールで、残響が多いと聞き取りにくくなる講演を実施するのか。どうしても2000人を入れたい講演ならサンブラザもあり、新ホールが対応する必要はない。 ・吹奏楽や合唱コンクールにも言及していたが、それらも含め、2000人規模のコンサートは、新宮城県民会館で開けばよいのであり、2つは絶対に必要ない。仙台で最高レベルのクラシック音楽が演奏されるコンサートの集客は、1000人以上1500人未満がボリュームゾーンだ。 ・今後、市民会館、県民会館、電力ホールがなくなってしまうと、仙台市内には、使い勝手の良い1000～1500人規模のホールがイズミティ大と川内萩ホールのみとなってしまいます。いずれも、音響のよいホールとは言いにくいことから1500人規模の音楽ホールが望ましい。 	<p>東日本大震災後、生の音の音響性能に優れた2,000席規模のホールの整備について、1万人近くの市民の皆様からの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。</p> <p>また、多くの文化芸術団体・公演主催者より「仙台市内でホール施設の予約を取れない」「2,000席規模で十分な舞台機能を有するホールがないことから、仙台で開催できない大会や公演がある」とのお声をいただいております。一方で、仙台市民会館(1973年開館)は老朽化が進み、本複合施設開館後は施設の更新を行わない方針としております。</p> <p>新県民会館には、高い稼働率である現県民会館の需要の大多数が移行するものと見込まれ、市民会館で受け止めてきた需要やこれまで仙台で開催できなかった公演の需要などが加わった場合、一館のみで全てを受け止めることは難しく、県市双方で実施した需要想定調査においても、「それぞれが2,000席規模のホールを整備しても供給過剰とならない」という結果を得ております。</p> <p>こうした需要面の視点に加え、本複合施設は仙台の文化芸術の振興を総合的に推進する拠点を目指しており、多くの市民の皆様にも多様な文化芸術の創造や体験の機会を提供するため、コンサートホール形式とプロセニウム劇場機能に転換可能なホールとしたものでございます。</p> <p>世界的な実績を持つ音響設計会社によるコンサルティングのもと生の音源に対する優れた音響性能を持つホールを実現することで、新県民会館との役割分担をしながら、仙台の文化芸術の発展を目指してまいります。</p> <p>なお、「講演」での利用につきましては、青葉山エリアでは本施設の整備予定地を含めエリア一帯を活用した大規模学会が開催されてきた実績があることから、同等規模の学会の開催時には本施設も会場の一部として活用されることも想定しております。講演のみならず多様な舞台芸術に対応する転換型ホールとして、残響時間は可変とする想定であり、音響設計会社の専門的知見のもと各般の利用目的に対し適切な音響環境を実現してまいります。</p>	令和8年1月16日
24	<ul style="list-style-type: none"> ・複合施設整備に向けた財源調達内訳を明示するほか、整備費の具体的な支払いのタイミングと支出額、市全体の歳出に占める割合を示してほしい。 ・経済波及効果を年間47億円とした試算の具体的な内訳と裏付けを公開してほしい。 ・藤本壮介氏の設計が持つ独自性や未来への価値を、市が発注者として自信を持って擁護し、声なき応援者の期待を裏切らないよう、引き続き強いリーダーシップを発揮してほしい。 ・「多くの市民が利用する想定」とのことだが、その具体的な根拠となる年間利用者数の目標や、市民全体(約109万人)のうち何割の市民が何らかの形で施設を利用できる見込みか示してほしい。 ・施設のポテンシャルを最大限に引き出すための運用体制や指定管理者の業務仕様を検討し、指定管理者の評価基準を明確にしてほしい。 ・市民が多様な方法で施設を使おうとする斬新なアイデアを、形式的なルールで妨げることのないよう、設計者と発注者が一体となって柔軟性と創造性のある施設運用のあり方を検討してほしい。 ・「せっかく実現するのであれば、消極的で無難な施設ではなく、「仙台市やるな！すこいな！」と内外から羨望の目で見られるような、未来を象徴する施設になることを心から願っている。市民が自信をもって計画を応援できるよう、透明性のある情報開示をお願いしたい。完成を楽しみにしている。 	<p>施設整備費については、関連経費を含めた額や財源について精査を進め、整備の各段階にお示ししてまいります。また、市全体の財政状況につきましては、年2回、中期財政見通しをお示しするなどの取組みを行っているところでございます。</p> <p>経済波及効果については、「施設の運営や事業展開により誘発される生産額とそれに伴う波及効果」で21億円強、「来場者の消費により誘発される生産額とそれに伴う波及効果」で約25億円強の合計で約47億円と推計しました。</p> <p>前者については、他都市の類似施設を参考に運営・事業費を約18億円/年と想定し、宮城県産業連関表を用いて県内における効果額を算定しております。後者については、大ホール・小ホール・震災メモリアル拠点といった諸室ごとに想定来場者数を試算し、利用目的別の1人当たり消費額を積和したうえで、前者と同じく宮城県産業連関表を用いて県内における効果額を算定しております。これにとまらない効果を目指すとともに、教育や福祉、防災など、仙台のまちづくりの様々な面において大きな社会的効果を発揮するものと考えており、開館後も含め、こうした経済的効果・社会的効果の可視化に努めてまいります。</p> <p>来場者数見込は合計で約54万人であり、オーケストラ鑑賞会や災害文化の展示の見学などで市内全域の児童生徒が来場することを見込むほか、障害のある方、高齢の方など、あらゆる人に文化体験の機会を提供するプログラムを展開するなど、多くの市民の方々が来場する施設運営を目指してまいります。</p> <p>本施設は、文化芸術と災害文化が交わり仙台ならではの文化を創造・発信する、世界に類のない施設を目指しております。その運営に際しては、市との密接な対話・連携のもと、施設単体にとどまらない面的な広がりや政策と連動した事業展開が求められるものと考えております。こうした視点を踏まえ、適切な指定管理者を選定するとともに、業務の仕様、評価指標の検討を進めてまいります。社の都の新たなシンボルとして国内外から多くの人を惹きつけ、仙台のまちをより豊かにする拠点とすべく、整備の必要性やこの施設がもたらす価値についてより一層の情報発信に努めながら、着実に整備を進めてまいりますと存じます。</p>	令和8年1月16日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年2月28日までに寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.11～12 No.58～No.66を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
25	・ホールの多目的化はどうしても帯に短し襷に長しになってしまい、音響的に良い影響を与えないと思う。出来たら純粋な音楽ホールとして世界に自慢できるホールを作ってほしい。 ・音楽ホールにパイプオルガンは必須。近現代の大規模な管弦楽曲ではパイプオルガンが使われる曲が多数ある。何十年か越しのホールが出来るのであれば、完全なホールを創ってほしい。	本市施設の大ホールは、多様な公演のニーズ、市民の皆様の多方面からのご要望に最大限対応すべく、転換型の2,000席規模のホールとしたところでございます。このため、パイプオルガンの設置は予定しないところでございますが、生の音源に対する優れた音響性能を持ち、高く評価されるホールの実現を目指してまいります。 既存の施設の中にも、音響性能が高く評価される転換型ホールが全国に多数ございます。本施設では、世界的な実績を持つ音響設計会社に音響コンサルティング業務を委託し、音響反射板の重量をはじめとして、音響性能確保のために考慮すべき点を取りまとめた「音響ガイドライン」を定めております。設計プロセスにも上記音響設計会社や劇場に関する多数の専門家が参画しており、その知見を十分に生かしながら整備を進めてまいります。	令和8年 1月16日
26	音楽ホールは不要。何で音楽ホールが必要なのか伝わってこない。インスタグラムにやる気が感じられない。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 整備の必要性やこの施設がもたらす価値について、より一層の情報発信に努めてまいります。	令和8年 1月16日
27	・施設整備に係る費用の財源を確保できないのであれば整備計画を凍結すべき。 ・宮城県のローコストアリーナ建設構想にのっかり、収容1万人規模の複合施設内に音楽型重視ホールを併設するように計画を見直したほうが良いのではないか。 ・マルシェやワークショップは並行して大改造する西公園内でやれば良いのではないかと。マルシェやワークショップは不要ではないか。災害文化の展示も、震災遺構の荒浜小やせんだい3.11メモリアル交流館があり、過剰整備だと思う。音楽ホールに必要なパーツに特化した再デザインが必要。 ・ポーリング調査結果に係る調査報告書を公開しないのはなぜか。整備予定地の川内地区は水はけの悪い場所だが、そんな土地に免震構造の建物を作ると地盤沈下等のリスクはないか。 ・市民説明会の質疑応答で発言した人には回答して、オンラインでの質問者には回答しないのは市民サービスの差別に繋がるのではないかと。	「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律(劇場法)」におきましては、「劇場、音楽堂等は、人々の共感と参加を得ることにより『新しい広場』として、地域コミュニティの創造と再生を通じて、地域の発展を支える機能も期待されている。」という考え方が示されております。 多様な目的を持った人々の出会いと交流を促進する吹き抜け空間や、マルシェやワークショップなどの取り組みは、上記の考え方を基とする本施設において、重要な役割を担うものと考えております。 また、震災メモリアル拠点については、平成26年に仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会からの提言を受け、「津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承する」との方針を定めました。沿岸部の拠点として、せんだい3.11メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校を先行して整備し、中心部の拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと複合整備することを決定したものです。 仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設として、事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら、整備を進めてまいります。 なお、宮城県が検討を進めている「ローコストアリーナ」につきましては、アーティストの公演や大規模イベント等を担う施設として、本施設とは異なる役割を果たすものと認識しております。本施設と県の施設がそれぞれの特性を生かしながら、相互に補完し合い、仙台圏全体のにぎわい創出や交流人口の拡大につながるということが重要だと考えており、合築による計画見直しは想定しておりませんが、宮城県とは今後とも連携を図ってまいります。 令和5年度に実施したポーリング調査報告書につきましては、技術的な情報が多いため基本計画には添付しなかったところでございます。 地盤の硬軟や締り具合の程度は、土質ポーリング柱状図(標準貫入試験)のN値で判定されます。N値が低い場合は、地盤が軟らかく不安定であることを示し、補強工事や地盤改良が必要になる可能性があります。逆にN値が高い場合は地盤が安定しており、建物の重量をしっかりと支えられることを示します。本事業地の西側では地下3m程度でN値が50を超えており、大型建物の建造に耐えられる非常に堅固な地盤と判断されました。 ご指摘のとおり、当該地区は地下水位が高い地区ですが、地下水は堅固な地盤より高い位置で観測されておりますので将来の地盤沈下等のリスクは生じないものと判断しております。 市ホームページ上の意見募集フォームに寄せられたご意見につきまして、このように市の考え方を回答させていただくことといたしました。	令和8年 1月16日
28	一番気になっているのは運営体制である。 災害文化は、さまざまな地域における災害によって対策や考慮しなければならない点が常にアップデートされていくという実感がある。「常に対話し続けることができる施設」ということが重要であり、「ルールやマニュアルが本当にこれで良いのか?」ということを常に考え直し、アップデートしていくという姿勢が必要だと思う。その良い例として、秋田市文化創造館の取り組みに注目している。 市民と共に公共施設はどうあるべきかを考える姿勢を持ち、次に必ず来る災害に対するスキルを市民とともに作り上げていけると良い。凝り固まった施設ではなく、柔軟にどのようなカタチにも変化していける施設になることを望む。	災害文化の創造を行うためには、災害情報の更新はもとより、多様な方々との対話による気づきや学びを通じ、取り組み自体も不断に更新していくことが重要であると考えています。 地域の多様な人材と協働した事業展開を図るとともに、柔軟な施設運営のもと市民の皆様から生まれる多様なプロジェクトを後押ししていただけるよう、他都市の先進事例を参考にするとともに、運営のあり方の検討の段階から市民の皆様に参画いただくような取り組みを、今後とも行ってまいります。	令和8年 1月16日
29	吹奏楽関係者にとって待望の音楽ホールだ。コンクールを開催する際の楽器搬出入の配慮がなされていること、コンクール特有の演奏者と楽器の動線がしっかり確保されていることは素晴らしい。仙台に世界に誇れる音楽ホールが完成し利用できるようなことを願っている。	市民の皆様から愛されるとともに、国内外から多くの人を惹きつける施設を目指し、整備を進めてまいります。	
30	ホール建設に賛成。		
31	2000席規模で良い音響設備を備えるホールがないことが仙台市の文化活動の発展、音楽文化の醸成にブレーキをかけている。国内外の一流演奏家の演奏機会の増加や各種コンクール・コンテスト開催のため、宮城県内外から広く集客するためにも、十分なキャパシティのホールが必要で、ぜひ整備を実現してほしい。		令和8年 1月16日
32	東北各地に素晴らしいホールがある中で、政令指定都市の仙台にだけないのをとても寂しく感じている。胸を張って楽都仙台と言えるためにも計画を推進し、早期に立派なホールができることを願っている。		

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年2月28日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

※P.11～12 No.58～No.66を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
33	市民説明会ではクラシック音楽を愛好している方からパイプオルガンの要望や1500席が良いとの意見があったが、こだわりの極致かと思う。自身としては、エスカレーターの設置と、女性用のトイレを男性の10倍くらい多く設置することを望む。意外と千客万来かも。弱者救済宜しく願いたい。	施設各所にエスカレーター・エレベーターを設けるとともに、ホール来場者用のトイレは、女性用が特に混雑することを前提に十分な数を備えるなど、あらゆる人が気軽に訪れ、快適に利用できる施設を目指してまいります。	令和8年 1月16日
34	自分自身が吹奏楽をしていることから、演奏できる場所が増えるのはとても嬉しく思うし、ぜひ完成させてほしい。また、震災が起こった際の避難場所として活躍してほしい。	市民の皆様から愛されるとともに、国内外から多くの人を惹きつける施設を目指し、整備を進めてまいります。 なお、本施設は、災害発生時の避難所等の直接的な役割を担うものではありませんが、免震構造の採用によって高い安全性が期待できる施設であり、帰宅困難者の一時的な受け入れなどの役割を果たせるものと考えております。また、平常時においては、震災の経験と教訓に基づく災害文化の創造を通して、災害に備え、災害から立ち上がる力を広める施設を目指してまいります。	令和8年 1月16日
35	日常を忘れて心穏やかに過ごせるような、大きくてキレイな施設になってほしい。また、演奏で人が集まり、耳を傾け、交流できる場をつくってほしい。	市民の皆様が日常的に集い、交流することのできる施設を目指し、着実に整備を進めてまいります。	令和8年 1月16日
36	・県内のホールは声楽や演劇向けに作ったようなホールばかりであるため、吹奏楽や管弦楽、オーケストラにとって音響の良いホールが必要。市民のみならず、県内や東北の各地からも愛されて利用されるホールにしてほしい。 ・駐車場の確保、楽器荷下ろしなどがスムーズに行えるスペース、日立システムズホールのパフォーマンス広場のような場所も設けてほしい。また使いやすい利用料金の設定にしてほしい。	本施設の整備にあたっては、世界的に実績を持つ音響設計会社に音響コンサルティング業務を委託し、優れた音響性能となるホールとなるよう進めているところであり、国内外から多くの人を惹きつける施設を目指してまいります。 日立システムズホール仙台のパフォーマンス広場とは異なる空間とはなりますが、誰もが気軽に訪れ様々な催事やプロジェクトなどが展開される「交流イベントロビー」を設ける計画でございます。駐車場につきましては、敷地の広さや地下鉄駅隣接であることも踏まえ一般用駐車場の駐車台数は90台となっておりますが、楽器荷下ろしの利便性などには十分に考慮してまいります。使用料の設定につきましては経営的視点とともに、多くの市民の皆様にご利用いただき、本市の文化艺术環境を向上させるという視点も持ち、検討を行ってまいります。	令和8年 1月16日
37	整備費が高すぎる。建設に反対。市民からの意見に個別回答をしないのであれば、どんな意見があったのかまとめたうえで、公に回答すべき。市民に対して不誠実だ。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様へ豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年 1月16日
38	複合施設は不要。複合施設が必要なのか、市は市民に対する説明を怠っている。市民から質問を募って、回答をホームページに公表することもできるはず。市の他の施策では行われていることが複合施設ではなぜしないのか。市民の意見に真摯に対応してほしい。	市民の皆様からのご意見につきましては、基本構想・基本計画それぞれの策定過程においてパブリックコメントを実施してまいりました。今後につきましても、ご意見を伺う多様な機会を設けてまいりたいと考えております。市ホームページ上の意見募集フォームに寄せられたご意見につきましては、随時、市の考え方を回答するとともに、整備の必要性やこの施設がもたらす価値について、より一層の情報発信に努めてまいります。	令和8年 1月16日
39	40年来の悲願であった新ホールが建設されることになり、嬉しく思う。世の中では2000人規模の新ホールが完成し、著名な演奏家のコンサートが仙台を素通りしていってしまうような状況を悔しく思う。ここまで進んできて凍結してしまった場合、今後復活することは不可能であろう。このホールは子供たちにとっても欠かせないものになる。吹奏楽も合唱も全国大会誘致が子どもたちの大きな刺激になり、技術が向上するし心も育つ。長期的視点に立って考えた場合、仙台という街づくりにも豊かな人間育成にも大きく寄与できる場所になると確信している。中断させずに前に進めてほしい。	「楽都仙台」としての本市の文化艺术をさらに発展させるとともに、未来を担う子どもたちや若い世代の育成に貢献し、本市の魅力を一層高めるまちづくり・ひとづくりの拠点を目指し、整備を進めてまいります。	令和8年 1月16日
40	ホールが出来ることは喜ばしいが、費用がかかりすぎである。音響には力を入れてほしいが、外観は四角なビル型でも構わない。奇抜なデザインはいらぬ。建設後も維持費や修繕費が余計にかからないような建物にしてほしい。	本施設は、文化艺术と災害文化の複合施設として、多様な目的を持った人々や活動が交わり、共鳴する中から仙台ならではの新たな文化が創造されていく拠点を目指しており、そうした理念を実現する空間としてこのような設計案となっております。また、施設の外観については、屋根を分節することで、周辺への圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図られるようにしております。利用者にとっての使いやすさや維持管理コスト、メンテナンス性も十分考慮しながら、設計を進めてまいります。	令和8年 1月16日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年2月28日までに寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.11～12 No.58～No.66を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
41	派手な屋根のデザインは不要であり、音楽ホールに特化した屋根にするといくらぐらい削減になるのか。また、建設費用は仙台市の税金なのか、市民の使用は無料で市外は有料なのか。税金も徴収し、市民からも入場料等を徴収するのであれば二重徴収になると思う。	屋根については、周辺への圧迫感を低減し青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、日差しの遮蔽、屋内と屋外が連続する開放的な環境の確保といった点も考慮しております。 特定の部分に絞って費用を比較することは難しいですが、今後実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法(ECI方式)を導入するなど、建築全体のコスト縮減・品質向上に取り組んでまいります。 また、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。 施設の使用料については、市民の多様な活動を支える拠点という本施設の役割、受益者負担の考え方や周辺施設とのバランスなどを総合的に勘案し、今後具体的な検討を行ってまいります。	令和8年 2月12日
42	今回の施設建設に反対している立場ではなく、建設するのであればより良い施設の完成を願う立場として、何点が意見したい。 1. 建築外観デザインについて コンペ当時の統一感ある外観デザインが失われ、現在の案は無理にコンペ当時の半分のデザインを残したイメージに感じる。例えば屋外階段が古い公民館の屋外階段のように感じられる。市民の評価、世界的建築家の建築作品としての良い評価を得ることができるのか疑問である。 一案として、パースで表現されている音楽ホール棟の外観により強いデザイン性を持たせる一方、屋外の「ひらひら」の部分も含め、交流イベントホール棟のデザインをシンプルなものに変更してはどうか。再設計の時間やお金はかかるが、最終的な建築コストを抑える方向に考えていけば有効なのではないか。「ひらひら」部分は構造や施工の難しさに比べ、完成後は使いづらいという意見が多くなるものと想像する。全体的にシンプルで統一性あるデザインに見直すことが良い。 2. 1Fスペースの計画について 交流イベントロビーは、音楽ホール利用者の待機場所になる可能性があるため、両者の動線と空間の融合性を改めて検討すべきである。 また、レストランは眺望を活かす観点から2F配置が望ましく、トイレや工作工房も交流イベントロビーの最大限の活用を考えるとこの場所でないと感じる。 3. 大ホールについて 可動式ではなく固定舞台による音響最重視の設計が望ましい。後方約200席を囲むサラウンド型配置がどのような効果を生むのかが有効性を感じないし、若いアーティストのライブでは音響機材や演出装置が優先になり後方席が使われない可能性がある。固定式とすることで余分なバックヤードを減らし、建設コスト削減にもつながる。 4. 地下1Fについて スロープからの雨水流入対策、機材搬入トラックの切り返し、ガルウイング車に対する天井の高さなどは大丈夫か？ 可動式舞台を廃止すれば客席収納スペースも不要となる。震災関連施設であるのに災害時の備蓄庫のような場所が見つからないので、可動式をやめて余ったスペースを備蓄庫に当てれば良いのではないのか。 5. 1Fについて 可動式客席をなくすことで1Fのバス乗降スペースに余裕ができ備蓄庫も設けられる。レストランや工作室は2F以上へ移し、1F交流スペースとホール関連機能の再構築が必要である。もぎりやホール側のトイレ計画がこれで良いのか気になる。 6. 1F～4Fについて 市民利用スペースに比べ、運営側スペースが過大に感じる。吹き抜けと使用できるスペースのバランスも気になる。上下階のつながりは大切だと思うが、上下の気配を感じる空間が果たして良いのか。また、コンペ案からレイアウトが変化している現状を踏まえ、デザイン全体を再構築し、コストの削減、シンプルで素晴らしい建築デザインを望む。	1.建築外観デザインについて 公募プロポーザル以降の設計プロセスにおいて、外観のデザイン性のみではなく、設計コンセプトに基づく内部空間の機能性や連続性、諸室に必要な機能、利用想定に基づく相互の配置、コスト、構造や設備といった要素について総合的に検討を進めてきた結果、現在お示している設計中間案となったものでございます。 屋根が多層的につながる外観については、屋根を分節し、段階的に設けることで、施設の高さや大きさに伴う圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、日差しの遮蔽を高めながら、屋内と屋外が連続する開放的な環境を確保することを意図しております。全体的に統一性があるデザインという視点は重要であると考えており、という様々な視点を想定しながら、総合的に検討を進めております。 2.1Fスペースの計画について 1階交流イベントロビーは、ホール来場者に限らず、誰もが気軽に立ち寄り、居場所を見つけられる「開かれた広場空間」となることを目指しています。一方で大ホールで大規模公演が実施される場合等は、両者の動線が交錯し混乱を招かないよう、動線計画や運用面での工夫を行ってまいります。 また、レストランや諸室の配置については、利便性等を考慮して現在の設計案となったものであり、眺望を生かしたりロビー空間の魅力を高める方策については今後とも検討してまいります。 3.大ホールについて 本施設の大ホールは、「コンサートホール形式」と「プロセニウム劇場形式」に転換する多機能ホールとなります。 クラシック音楽等の公演においては、生の音が適切に反射するホール形状となっていることが重要となります。「コンサートホール形式」においては、可動式の音響反射板によってそのような空間を実現します。 また、音楽鑑賞においては、視覚的な要素や演奏者・聴衆の一体感といったことも素晴らしい音楽体験を形づくる重要な要素となります。舞台を介して観客同士が向き合い、演奏者を含むホール全体での一体感を感じたり、多様な眺めと響きを楽しんだりすることができる空間が「楽都仙台」を象徴する本施設に相応しいという考えから、「コンサートホール形式」においてサラウンド型を導入したものでございます。 一方で、ご指摘いただいたような音響機材をふんだんに用いるポップスや演劇などの公演では、側舞台空間や吊物バトンなどの舞台機構が必要となり、専用のコンサートホールで開催することは困難です。こうした多様な演出に対応するのが「プロセニウム劇場形式」であり、多くの市民の皆様が鑑賞に訪れることができる・舞台に立つことができる施設とするため、この2つの形式に転換可能なホールとしたところでございます。 4.地下1Fについて 地下階への雨水流入については、適切な雨水排水を計画してまいります。また、搬入車両やガルウイング車への対応につきましても、車両の動線や積卸を想定して寸法を確保しながら設計を行っております。 本施設は、災害発生時の避難所等の直接的な役割を担うものではありませんが、帰宅困難者の一時的な受け入れなどのために必要となる物資の備蓄庫を1階に設けております。 5.1Fについて ホールの転換機構や諸室配置についての考え方は前述のとおりです。ホール内のトイレの基数については、他都市の近年の施設の事例を参照し十分な数を計画しております。もぎりやトイレの並び列なども含めた動線計画については、より安全で円滑なものとなるよう引き続き検討してまいります。 6.1F～4Fについて 吹き抜け空間を含む施設全体のデザインの考え方につきましては前述のとおりです。運営エリアについては、安全で円滑な施設運営や魅力的な事業実施、市民の皆様様の活動支援などのための職員配置を想定していることに加え、レジデントオーケストラである仙台フィルハーモニー管弦楽団の事務所や備品・備蓄倉庫なども含んでおり、必要な機能を整理したうえで現在の設計案となっております。	令和8年 2月12日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年2月28日までに寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.11～12 No.58～No.66を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
	7. 市民ワークショップについて 市民ワークショップの意義は認めるが、今年度のワークショップは「何をやりたい?」の繰り返しで終了した印象。これを施設完成まで実施し続けるのが良いのか疑問である。	7.市民ワークショップについて 令和7年度の市民ワークショップは、多くの市民の皆様が本施設への関心を持っていただくとともに、多様なご意見・アイデアを施設づくりに生かすため、基本設計の一環として実施しました。今後とも、このワークショップの成果を生かしつつ、市民の皆様とともにこの施設のあり方をさらに幅広い視点から考えていけるような対話の場づくりを検討してまいります。	
	8. サテライトオフィスについて 素晴らしい考えだと思うが、実際に設計業務をするオフィスでもあり、市民交流スペースとしての活用には工夫が必要。月に1回自由に集まれる日を設けるなど、イベント化するのが良いのではないかと。オフィス内をパーテーションで仕切ることも必要。	8.サテライトオフィスについて サテライトオフィスについては、いただいた意見を設計事務所と共有し、あり方を検討してまいります。	
43	災害時には衣食住だけではなく心を癒し希望を与える文化の力は必要で、仙台は身をもって体験した。この経験を世界中の多くの人に知ってもらい災害に備え考えて行くための施設となってほしい。特に子どもたちが災害を学んだり、プロと同じホールのステージで発表できる経験を多く作ってほしい。	本施設は、東日本大震災の伝承のみならず、震災からの復興過程で認識された文化芸術の力も生かしながら、これからの災害に備える知恵や術、災害が起きたときに立ち上がる災害文化の力を育み、国内外に広げていくことを目指しております。また、将来を担う子どもや若い人に多様な文化芸術体験や災害の学びの機会を提供することを重視してまいります。市民とプロがともに活躍する施設となり、多くの市民の方に最高水準の舞台に立つ機会を提供することで、個々人の創造性、ひいてはまち全体の創造性を高めてまいりたいと考えております。	令和8年 2月12日
44	「本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。」と市は回答しているが、たった1万人のために1,000億の無駄な金を使うのはやめてほしい。少なくとも1万人以上の市民は反対しているし、地元経済界といってもほんの一握りで、多くの事業者は大反対である。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。交流人口・関係人口拡大による経済的価値はもとより、教育や福祉、都市ブランドの向上といった多様な社会的価値を生み出し、実際に施設に足を運ぶ人以外も含めたあらゆる市民の皆様にもメリットを感じていただける施設を目指し、整備を進めてまいりたいと考えております。	令和8年 2月12日
45	「(音楽ホール)の整備の必要性やこの施設がもたらす価値について、より一層の情報発信に努めてまいります。」とあるが、今回、市の考えをアライバイ程度でホームページにさりげなく掲載しただけで、アクセス件数が多いと思われる市のトップページ等には、一切掲載のお知らせはない。インスタでも発信もない。市が積極的に広報しようという本気度は全く伝わってこない。	情報発信については、より多くの市民の皆様に関心を持っていただけるよう、発信手法やタイミングを含め検討しながら、本施設の整備の必要性や価値について、より積極的かつ分かりやすい情報発信に努めてまいります。	令和8年 2月12日
46	■スタジオ・練習室に吊りバトンを これまで長年ワークショップやアウトリーチを、市民センターの会議室や体育館、学校の教室など、あらゆる施設で行ってきた。天井にせめて1本のバトンがあればあれこれできたのに、と思うことが多くある。躯体からある程度の荷重に耐える吊りバトンがあると、使い勝手や表現の可能性を格段に高める。 照明スポットライトや音響スピーカーだけでなく、袖幕、カーテン、看板、装飾、例えばミラーボールやくす玉など、様々な効果を試すことができる。 1本のバトンがあれば、それを頼りにバトンを仮設して、欲しい天井位置に吊りたいものを仕掛けることもできる。逆に、バトンが無ければ天井から吊る作業は非常に困難となる。また、建設前ならともかく、後付けすることも現実的に無理だ。	■吊りバトンの設備について ワークショップスタジオなど各諸室の吊りバトン等の設備については、いただいたご意見を参考に、実施設計の中で詳細を検討してまいります。	令和8年 2月12日
	【大練習室】 ・西側(収納庫の反対側)の壁から6～7m離れた天井位置 ・東西の壁と並行(南北のバトン) ・単管状の固定(昇降・可動ナシ) ・西壁からの距離は大練習室の天井高5mを基準として+1～2m ・天井面から単管の芯までH15～20cm程度 ・躯体から下り荷重に耐えるのが理想(吊荷重をバトンに表記) ・できれば東側と中央にも並行のバトン ・色は素のまま構わない(天井と同色でも何色でもかまわない) ・単管より細くても良いが壊れないこと(中間に支柱が入っても良い)		
	【ワークショップスタジオ】 四隅の柱につながる梁のような、東西南北に4本わたるのが理想 ・単管状の固定(昇降・可動ナシ) ・天井面から単管の芯までH15～20cm程度 ・躯体から下り、または柱から出て、荷重に耐えるのが理想(吊荷重をバトンに表記) ・色は素のまま構わない(天井と同色でも何色でもかまわない) ・単管より細くても良いが壊れないこと(中間に支柱が入っても良い)		
	【その他のスペース】 多目的交流スペース、市民活動スペースなどにも吊りバトンがあるとよい。また、企画・常設展示室やアーカイブライブラリーには、パナーなど自在に吊れる(メッシュ状?)の天井が良いと思う。		
	■スタジオ・練習室は二方向避難 その場で出来た作品やプログラムの、有料での試演会などが出来るよう興行場法や消防法に則り二方向避難を確保していただきたい	■各所室からの避難経路について 各諸室からの避難経路については、消防局と協議のうえ適切に設定してまいります。	

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年2月28日までに寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.11～12 No.58～No.66を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
	<p>メモリアル拠点の機能や特色はどこから生まれるべきなのか、どうい担当部署・部門が必要なのか、音楽ホールに対して「災害文化」のイメージの弱さを懸念している。</p> <p>「基本計画」に示されている「事業実施例」が、中心部震災メモリアル拠点の事業イメージと十分に連動しているだろうか。</p> <p>仙台市の「強み」として ・東日本大震災から立ち上がってきた経験 ・市民協働、男女共同、防災教育、社会教育、産学連携 ・防災環境都市としての国際的なプレゼンス ・文化芸術・スポーツ(プロ/アマ) が挙げられますが「災害文化」に反映されていないのではないか</p> <p>ワークショップ・アウトリーチは「文化芸術」であり、メモリアル拠点がやるべきモノとは別モノ、と捉えられているのではないかと。</p> <p>実は「ワークショップ・アウトリーチ」の要素や本質はメモリアル交流館10年の運営や事業に潜んでおり、当初から意図的に実施されています(「メモリアルコンサート」や実演や朗読などの協力事業も含め)物語として伝える「VOICE」や、荒浜磯獅子踊りなどはその果実だ。</p> <p>これらがメモリアル側で語られず音楽ホール側に回収されてしまうと、内容が音楽コンテンツに絡み取られ音楽に縛られ、持っていかれ、引っ張られ、なかなか自由に展開できないのではないかと。</p> <p>街なかの「メモリアル拠点」では、15年間の支援の経験や実績(メモ館事業だけでなく「文化庁派遣事業」など)を踏まえて、社会の益となる動きを研究し、応用し、発信するアートセンターやラボの機能に発展、つまりワークショップ・アウトリーチをメモリアル拠点の側に寄せコンテンツの中心にアートセンターやラボといった「機能」が見えなければ音楽ホールにどンドン吸い寄せられて、運営に活かされず、しまいに消えてしまふんじゃないかととても懸念している。</p> <p>・音楽ホールはその存在自体に求心力がある。それに対して「ワークショップ・アウトリーチはメモリアル拠点のコンテンツである!」「災害文化芸術」と位置づけた方がスッキリとし、現実的なイメージが動き出すのではないかと。 偶然なのか、地下鉄東西線沿線にメモ館、10-BOX、東北大災害研があり、一筆書きでつながる相乗効果に期待したい。 かつて岡本太郎が丹下健三の大屋根をぶち抜いて建築と芸術が戦っているような、ギャップを感じるメッセージのような、「実物を見なければ損だ」と思われるような求心力 被災地という場に対峙する求心力は、必然的に芸術性を帯びるのではないかと</p> <p>【クワイエットルーム】 ジュームズ・タレルのブルー・プラネット・スカイ(金沢21世紀美術館)等の作品やマルクス・キーンソンのインタラクティブアートのイメージですがクワイエットルームで同時刻の仙台の海が見える身体的な体験 「青葉山に行けば海が見えるらしいよ!」「マジで?」とささやかれ、いつ行っても風景が異なり、子どもから大人まで、無言で見ていたくなるライブ感、しかも「あの海が・・・」という思いに恒久的に向き合う求心力。ここは妥協すべきではない。</p> <p>地下鉄東西線が開業して10年、目標乗客数を達成し、黒字が見込まれるというニュースは、市民のだれもが喜ぶ反面、ホッと安堵している人も少なくないのではないかと。開業前の反対意見は相当な圧力を感じた。実物を見て実感してみても初めて、次第に反対意見も収束したように感じる。 それほど実物の無い中での議論は、個々人の思いを見比べることができず、ネガティブに偏りがちなんだと、改めて感じている。 ただし、地下鉄というインフラは、実際に利用できて数字で価値を表わせるが、複合施設は数字だけでは表せない価値を持っているはずだ。</p> <p>数字だけではなく、数字を超えた表現や創作や想像の象徴として、見え、身体的に体感できる実物に求心力を持たせるために、妥協はすべきでない。その求心力は、メモリアル拠点の「災害文化・芸術」を引き寄せワークショップ・アウトリーチ振興の源泉になるのではないかと。</p> <p>市民に益をもたらす続け、10年後の市民が納得する施設になってほしいと心から願う。</p>	<p>■災害文化事業について さんだい3. 11メモリアル交流館は、東部沿岸地域の玄関口として、被災地域の文化や、震災の経験と教訓の継承、発信に取り組む拠点として地域と連携し様々な事業を展開してきました。</p> <p>「基本計画」では事業実施例のイメージと記しておりますが、本施設は多様な社会的価値の創出を通じて将来世代を含めた市民の皆様にも豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける施設を目指しており、メモリアル交流館における事業実施の成果や事業の立案、展開手法も参考としながら、引き続き検討を進めてまいります。</p> <p>災害文化事業の実施にあたっては、多様な主体の参加や交流によるワークショップやプログラムを通じて、市民の皆様からのアイデアを実践する機会を多く確保しながら、取り組みを進めます。 いただいたご意見を参考に、引き続き検討を進めてまいります。</p> <p>■クワイエットスペースについて クワイエットスペースは、いつも変わらずにある空間として常設し、心を落ち着け、静かに想いを巡らすことができる場として検討しております。いただいたご意見を参考に引き続き、詳細を検討してまいります。</p> <p>本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとつづくりに必要な施設であると考えております。交流人口・関係人口拡大による経済的価値はもとより、教育や福祉、都市ブランドの向上といった多様な社会的価値を生み出し、市民やまちに貢献する施設を目指しております。そうした効果の可視化にも努め、多くの方に価値を実感いただける施設としてまいりたいと考えています。</p>	
47	<p>仙台は有名なコンサートが飛ばされたり、友人からは公演がしたくても、いつもホールの予約が埋まっていると聞いている。東京のホールのようにプロが立つ舞台で子どもたちが演奏できることは、とても良い経験になる。一緒に災害を学ぶことも仙台だからこそで、青葉山が賑わうことになる。 建築費が高くなっているのだから、何もかもが値上がりしている現在、ある程度は仕方がない。 それよりも、ホールが出来ることによって、そこが観光場所の一つとなり、仙台が賑わい、元気になって、文化を深め、子どもたちへの良い効果も期待できるはずだ。完成を楽しみにしている。</p>	<p>本施設は、乳幼児を含む子どもたちや若い世代が文化芸術や災害文化に触れ、感性や創造性を育む機会を創出することを重視し、多様なプログラムを展開することを計画しております。また、市民とプロがともに活躍する施設となり、多くの方が最高水準の舞台に立つことで、個々人の創造性、ひいてはまち全体の創造性を高めてまいりたいと考えております。このように、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもたらす、仙台の新たなランドマークとして国内外から多くの人を惹きつける拠点となることを目指し、着実に整備を進めてまいります。</p>	令和8年2月12日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年2月28日までに寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.11～12 No.58～No.66を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
48	県民会館も新しくなるので、青葉山の施設は必要ない。市民が使わない施設を増やさず、補助金などに充ててほしい。青葉山の自然を破壊することにもなると思うため、建設反対。建設場所がさくら野跡地であれば、利用しやすい。	本市では、多くの文化芸術団体・公演主催者より「仙台市内でホール施設の予約を取れない」とのお声をいただいております。一方で、仙台市民会館(1973年開館)は老朽化が進み、本複合施設開館後は施設の更新を行わない方針としております。 新県民会館には、高い稼働率である現県民会館の需要の大多数が移行するものと見込まれ、市民会館で受け止めてきた需要やこれまで仙台で開催できなかった公演の需要などが加わった場合、一館のみで全てを受け止めることは難しく、県市双方で実施した需要想定調査においても、「それぞれが2,000席規模のホールを整備しても供給過剰とならない」という結果を得ております。 本施設が立地する青葉山エリアは、豊かな自然に恵まれるとともに文化、歴史、学術資源が集積し、本市のアイデンティティを象徴的に示す場所です。本施設の整備を通じて、このエリアに国内外から多くの人を惹きつける求心力をもたらし、仙台の魅力や発信力の向上に貢献できるものと考えております。また、施設整備にあたっては、青葉山エリアの景観と調和した施設外観にするとともに、周辺と調和した緑化、自然環境への配慮に努めます。 なお、さくらの跡地の敷地面積は現在の整備予定地の面積の1/3未満であり、本施設の立地場所としては広さが不足しております。	令和8年2月12日
49	2000人が入るホール、とても楽しみにしている。今は山形に先を越されてしまい、たくさんのオペラや演奏会が山形で開催されている。関東圏・東北の大きな演奏会やコンクールは、仙台で開催してほしい。また、350席の小ホールも使い勝手が良いサイズで、完成が待ち遠しいが、ピアノ発表会など小規模の催事には、350席も大きく感じるため、さらに小さい100人くらいのホールがあると、たくさんの方が利用すると思う。	本施設では、これまで仙台で開催できなかった大編成のオーケストラ公演、オペラ・バレエなど総合舞台芸術の本格的な公演、文化芸術の大規模な大会などが開催されることを見込んでおります。 市民の皆様からの発表の場としては、リハーサル室を100～200名程度の発表会でも活用できる空間とし、控室やラウンジも設けるとともに、参加型の公演やワークショップを行えるワークショップスタジオを設けます。	令和8年2月12日
50	音楽や踊りや演劇の場所は他にもたくさんある。このご時世にまだ増やそうとする意味が分からない。先日誘われて歌のコンサートに行ったが、無料とは言え、なぜ市税が素人の団体にまで使われるのか遺憾である。物価高の世の中、一部の人はなく市民全員のために財源を使ってほしい。美術館の方がまだ有意義である。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールを整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、整備の検討を進めてきたところでございます。 本市では市民の皆様による盛んな文化芸術活動が行われており、その中で培われた人材の力が、東日本大震災からの復興や社会課題の解決に寄与する多様な取組みへとつながりました。本施設は、「仙台の財産」とも言える地域の文化芸術の力をさらに高め、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもたらす、国内外から多くの人を惹きつける施設としてまいりたいと考えております。	令和8年2月12日
51	新しい音楽ホールが出来るととても楽しみにしている。	市民の皆様から愛されるとともに、国内外から多くの人を惹きつける施設を目指し、整備を進めてまいります。	令和8年2月12日
52	整備予定地は、東北大や国際センターでのイベントが開催される際に渋滞が発生している。渋滞が発生しにくい場所に整備することを検討していただきたい。	伊達政宗公が仙台城を構えた「仙台はじまりの地」とも言える青葉山エリアは、豊かな自然に恵まれるとともに文化、歴史、学術資源が集積し、本市のアイデンティティを象徴的に示す場所です。この場所に本施設が立地することにより、エリア全体に国内外から多くの人を惹きつける求心力をもたらし、仙台の魅力や発信力の向上に貢献できるものと考えております。また、都心部に隣接し、大きな経済波及効果を創出できるものと考えております。 青葉山エリアでは、イベント時などにスポット的な交通渋滞が発生することは認識しております。エリア全体の総合的な交通環境のあり方について、引き続き検討してまいります。	令和8年2月12日
53	これだけ資材高騰していて当初の予算より大幅にあがる施設は不要である。税金の無駄遣いが酷い。宮城県でも2000人の施設をつくるのに、張り合って仙台市が作る必要はない。そんな金があるなら、中学生の給食費を無料するとか、そっちが先だ。本当にいらぬ。必要ない。税金の無駄遣いが許せない。どうしてもやるなら、是非を問う選挙をやってからしてほしい。	本市では、多くの文化芸術団体・公演主催者より「仙台市内でホール施設の予約を取れない」とのお声をいただいております。一方で、仙台市民会館(1973年開館)は老朽化が進み、本複合施設開館後は施設の更新を行わない方針としております。 新県民会館には、高い稼働率である現県民会館の需要の大多数が移行するものと見込まれ、市民会館で受け止めてきた需要やこれまで仙台で開催できなかった公演の需要などが加わった場合、一館のみで全てを受け止めることは難しく、県市双方で実施した需要想定調査においても、「それぞれが2,000席規模のホールを整備しても供給過剰とならない」という結果を得ており、これまでパブリックコメントをはじめとして様々な形で市民のご意見を伺いながら、整備に向けた検討を進めてまいりました。 本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくりのひとつに必要施設であると考えております。 事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年2月12日
54	仙台市の音楽ホールを年間10日ほど利用している。本当に必要なのはパトナホール規模のホールである。客席数が多いほど利用料は高くなる。市民の需要に合ったホールを作ってほしい。	仙台市内には、これまで大編成のオーケストラ公演、さらにそれに合唱が伴った大型公演などに適した施設がなく、このような公演を可能とする舞台設備と優れた音響性能を有する2,000席規模の大型ホールが長年求められておりました。 ホールを会場とするコンサートや舞台芸術公演のニーズは多岐にわたり、「仙台市内で会場が取れずイベントを実施できない」というお声を多く頂戴しているところでございます。令和2年に行ったホールの需要想定調査においても、十分な需要が見込めることを確認しております。 一方で、約350席の小ホール、100～200名程度の発表会にも対応したリハーサル室、参加型の公演やワークショップを行えるワークショップスタジオなども設けることとしており、市民の皆様が多様な活動を支える拠点となることを目指しております。	令和8年2月12日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年2月28日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.11～12 No.58～No.66を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
55	是非パイプオルガンを設置していただきたい。更に、パイプオルガン設置場所・空間は、パイプオルガンと仙台フィルハーモニー楽団も共演できる環境での構築をお願いしたい。現在、仙台市を含め宮城県内には、パイプオルガンと交響楽団が共演できる施設がない。本共演は東京まで聴きに行く必要があり、是非仙台でも聴きたい。	本市施設の大ホールは、多様な公演のニーズ、市民の皆様の多方面からのご要望に最大限対応すべく、転換型の2,000席規模のホールとしたところでございます。このため、パイプオルガンの設置は予定しないところでございますが、生の音源に対する優れた音響性能を持ち、高く評価されるホールの実現を目指してまいります。	令和8年 2月12日
56	この建物に必要性を感じられない。費用も当初の予定より約300億円も増えている状況でも進める事業なのか。約200億、約100億、と段階的に費用が上がり、現時点で約650億円、今後もまだまだ増える可能性が容易に予想できる。今後の仙台市のことを考えたら、こんな建物に現時点で約650億円かけるより、他に予算をまわす事があるのではないかと定禅寺通りの車線減少工事もだが、計画したから実行する！ご理解ください！ではなく、計画変更や中止なども含め、もう少し市民の意見を聞いてほしい。今は、この計画で得をする一部の賛成派だけの意見で進めていないか？ そもそも、震災後15年近く経って「震災メモリアル」と名づける施設を作る意味がわからない。施設が完成すれば震災関連の展示や何かもするのかもしれないか？ これは、音楽ホールを作るために「震災」と無理矢理結びつけただけではないか？ 私は仙台市にこんな多額の費用をかけた施設は不要だと考える。断固反対だ。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。震災メモリアル拠点については、平成26年に仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会からいただいた提言を受け、津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承するとの方針のもと、沿岸部の拠点を先行して整備してまいりました。本施設は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ、内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点を複合整備するもので、こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、基本構想および基本計画を策定した上で、基本設計を進めてきたところでございます。 本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 事業費の精査や財源の確保に取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年 2月12日
57	演劇や歌手用のホールはあるので、海外オーケストラの方々に来てくれるような外見や有名建築家などにお金をかけず、楽都の名に相応しい音響重視のクラシック専用ホールを希望する。仙台から世界に羽ばたく音楽家が育つように、駅から近くて通いやすい場所を希望する。パイプオルガンも設置して音楽の幅も広げていただけるとありがたい。 また名古屋市栄のホールのように、アトライブラリーを設置して芸術に関する情報、資料を閲覧、レンタルできるようにして欲しい。	本市施設の大ホールは、多様な公演のニーズ、市民の皆様の多方面からのご要望に最大限対応すべく、転換型の2,000席規模のホールとしたところでございます。このため、パイプオルガンの設置は予定していないところでございますが、生の音源に対する音響性能を重視するという方針のもと、世界的に実績を持つ音響設計会社に音響コンサルティング業務を委託し、整備を進めております。転換型ホールでも、十分な重量のある音響反射板を備え、音響性能に優れると評価されている施設が全国に多数ございます。本施設も同様に、上記音響設計会社の知見を十分に生かしながら、高く評価される施設を目指してまいります。整備予定地は地下鉄東西線国際センター駅に隣接しており、公共交通機関で通いやすい場所となっております。 また、仙台の文化芸術の過去と今にまなざしを向け、将来に向けた創造の資源としていくため、本施設における公演・活動の記録をアーカイブとして遺していくことに留意するとともに、先人の功績の顕彰、音楽にまつわる様々な情報の収集・集積などに取り組みたいと考えております。	令和8年 2月12日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年2月28日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.11～12 No.58～No.66を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
58	1.練習室の利用料を安くしてほしい。	1.使用料の額を定めるのは今後の段階となりますが、市民の多様な活動を支える拠点という本施設の役割などを踏まえながら、検討を行ってまいります。	令和8年 3月16日
	2.歩くところは幅広くしてほしい(白杖が当たる)。	2.誰もが安心して利用できる施設を目指し、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえて設計を進めてまいります。	
	3.音響の良いホールになることを願っている。	3.本施設では、世界的に実績を持つ音響設計会社に音響コンサルティング業務を委託し、コンピューターシミュレーションや音響模型実験などを通じて生の音の優れた音響性能の実現を図ってまいります。	
59	※2月1日の「第8回障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市」の中で開催した意見交換会を踏まえてのご意見	1.本施設は、文化芸術と災害文化の拠点という施設特性を踏まえ、心を落ち着け、大切な人やあたりまえの日常に静かに想いを巡らすことができるクワイエットスペースという空間を設けますが、これとは別に、センサリールームに相当するものとして、大ホール・小ホールに、遮音性があり誰でも安心して公演を鑑賞できる部屋を設けます。また、気持ちや体調を整えるために一時的に避難したり休憩したりできる場所としては、施設の各所に外の空気に触れられるテラスを設けるほか、イベントの性質に応じて仮設のカムダウンスペースを設けるなどの運営上の配慮もしてまいりたいと考えています。引き続き、障害のある方やその支援をする方からのご意見を伺う機会を設けながら、誰もが安心して来館できる施設を目指してまいります。	令和8年 3月16日
	1.車椅子の方の質問ででていた、センサリールーム(センサリフレンドリールーム)と、回答で触れていたクワイエットスペースは用途や機能が違うので、しっかり世界基準で検証してほしい。		
	2.視覚障害の音楽家の方が意見で伝えていた、地下鉄やバスの利便性と、コンサート時における増便については、リアルで鋭い視点だった。この見本市に来るとき、この方は、全盲のご夫妻でタクシーで来られており、かつタクシーを降りた歩道からせんだいメディアテーク内の会場までは、ほんの数メートルではあるが、通行人の方がボランティアで誘導してきた。さらに、帰路は、自宅最寄り行きのバス停のある電力ホール前バス停まで、わざわざ別のボランティアを調整し、せんだいメディアテークから移動していた。このご夫婦は仙台でもまれなアクティブな方である。仙台市だけでも2000人いると言われている視覚障害の方たちに、様々な角度からアクセシビリティを実現してほしい。		
	3.ろうの女性が、意見を伝える場で東京文化会館の演目やアクセシビリティにふれていたが、仙台市で委嘱した東京文化会館やKIITOの専門家と仙台市民や設計者がともに学ぶ機会をつくってほしい。		
60	4.参加者の方の発言によって、音楽の捉え方や災害文化の議論の不足が明らかになった。また、東北福祉大学の教員が障害当事者参加型のデザインプロセスを直前に発表した(※「大見本市」の中で、本見本市の1つ前に行われた、東北福祉大学共生まちづくり学部石塚裕子教授による発表が行われた)ことで、本来あるべき市民とのワークショップの作り方にヒントを得られたと思う。今後の、専門家との連携にもっともっと、仙台の資源を使っていたきたい。	3.本市では、施設運営や事業等について専門的な見地からの意見や助言を得るため、東京文化会館やKIITO(神戸デザイン・クリエイティブセンター)の方を含む4名の管理運営アドバイザーを委嘱しております。管理運営アドバイザーから市民や設計者がともに学ぶ機会場の場を設けることについても検討してまいります。	令和8年 3月16日
	音楽ホールの席数について削減の意見があるようだが、是非2000席以上の今の計画でお願いしたい。全国規模の音楽イベントはこの規模が必要だ。安易に減らしたら2度とできない、私は市民合唱団で活動しているが日立システムズホールの演奏会の日にはちを押しさえるのにも苦労している。その緩和のためにもよろしく願っていたい。		
61	音楽ホールに関して、コンサートをやる側にとっても使いやすいホールとなることを切に願う。そのためには、コンサートをやる側の方々(演奏家等)をアドバイザーとして迎えることが必要だ。	劇場や音響設計の専門家を含む体制でホールの設計を進めているとともに、中間案の発表後には地元プロモーターなど実際にこのホールを使用される方々からご意見を伺う機会を設け、そこでいただいたご意見を踏まえて来場者動線や搬入口の利便性などの改善を図っているところです。多様な演目に対応し、公演主催者にとっても観客にとっても使いやすい施設となるよう、引き続き多くの方のご意見を伺いながら整備を進めてまいります。	令和8年 3月16日
	例えば、シンガーソングライターの小田和正氏は過去のインタビューにて、大学～大学院にて建築を専攻した経験を踏まえて、建築物としてのコンサートホールについて私見を述べている。その概要は以下のとおり。 ・コンサートやる側の人間のことを考えていないのがほとんど。 ・音楽ホールでいちばん使用頻度の高いのは、明らかにクラシックではないはずなのに、「ここはオペラもできます」って、誰がここでいつオペラやるわけ？ ・いちばん最初に、どうしたら客と演奏者が一体になれるか、を考えるべき。 ・音楽ホールの設計については、楽屋とか搬入口とかのことも含めて演奏者に聞くべき。 ・維持するだけで赤字、毎日全部埋まったとしても赤字、建てるの金がかかりすぎて採算取れないのは、進る前からわかってたこと。(東京国際フォーラム) ・間口が広くてステージが広いのがいい。見切れない。(大阪フェスティバルホール) ・客席がずーっと後方まである奥行きが深いところは一体感がない。 ※ 出典:「小田和正インタビュー たしかなこと」(小貴信昭・著、ソニーマガジズ・刊、2005年3月18日発行)pp108-111 2千人規模のホールでのコンサートとなれば、照明や音響関連の機材も大掛かりなものになることが多いと思う。特に搬入口については、搬入が大変という所が多いようなので、せっかく新しく設計するのであれば、この点も充分に考慮していただきたい。		
62	2/1の見本市の検討会(「第8回障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市」の中で開催した意見交換会)に参加した。視覚障害者支援に携わっている。視覚障害当事者複数の方に参加したが、今後についてお願いがある。視覚障害者のための会議資料が何も用意されておらず、非常に残念だった。点字版の資料、触る模型などがあればわかりやすく、意見を述べたり、お願いができたしやすくなる。配慮に欠けていたと思う。今後、障害別の会議を予定しているとのことだが、視覚障害者にとって必要な資料の準備をお願いしたい。なお、点字資料は就労継続支援B型事業所がある。優先調達推進の観点からも、併せてよろしく願っていたい。	今後も障害のある方からご意見を伺う場を設けてまいりたいと考えており、いただいたご意見を踏まえ、視覚障害者の方にとって分かりやすい資料の提供に努めてまいります。	令和8年 3月16日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
 - 令和8年2月28日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。
- ※P.11～12 No.58～No.66を今回新たに掲載

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
63	全く無駄である。古いインフラの整備等やるべき事がある。仙台市は金持ち自治体なのか？仙台市役所、泉区役所等箱物ばかり金を使うのは納得出来ない。又計画の建物もライフサイクルコストの掛かる建物となっている。白紙撤回を願う。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。また、中心部震災メモリアル拠点については、2度にわたる検討委員会等で議論を重ねてまいりました。こうした経緯を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、複合施設の基本構想および基本計画を策定してきたところでございます。 本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様にも豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 コスト意識を強く持つとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年 3月16日
64	1.仙台市若林区には、すでに「せんだい3.11メモリアル交流館」が設置されている。その現状を踏まえると、青葉区青葉山に新たな複合施設として東日本大震災メモリアル拠点を整備する意義や必要性について、より明確な説明が求められるのではないか。まずは既存施設の改修や増築、さらには機能強化や認知度向上に取り組み、その活用を一層図ることが優先されるべきだ。 2.また、新設予定の音楽ホールについては、「仙台医療センター」跡地に移転予定のホール(※宮城県民会館)との役割分担やコンセプトの違いを、より明確に打ち出す必要がある。仮に新設するのであれば、中途半端な規模や仕様にとどまるのではなく、世界最高水準を目指した設備・音響性能を備えた、国内外に誇れる施設となることを期待する。 3.さらに建設地については、計画が進んでいる現状では難しい面もあるのかもしれないが、都市の「顔」としての象徴性や集客力を重視するのであれば、仙台駅周辺の土地活用も検討に値したのではないかと。都市全体のにぎわいや回遊性の向上という観点からも、立地の在り方について改めて議論が深まることを望む。	1.震災メモリアル拠点については、平成26年に仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会からいただいた提言を受け、津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点を連携し、震災の経験と教訓を継承するとの方針のもと、沿岸部の拠点として、せんだい3.11メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校を先行して整備してまいりました。 中心部拠点では、沿岸部の施設が積み重ねてきた蓄積をもとに、未来の災害に備え、乗り越える知恵や術を市民の皆さまとともに創り出していく役割を担うものであり、既存の施設と密接に連携してまいります。中心部拠点を訪れた方に、沿岸部に興味を持っていただき、沿岸部で学ばれた方が中心部拠点でさらに深めていただく、そうした仕組みづくりを通じて既存施設の活性化にもつなげてまいります。 2.本施設は、文化芸術と災害文化が交わり仙台ならではの文化を創造・発信する、世界に類のない施設を目指しております。また、世界的な実績を持つ音響設計会社によるコンサルティングのもと、生の音源に対する優れた音響性能を追求しております。こうしたことにより新県民会館との役割分担を図りながら、仙台の文化芸術をさらに発展させ、国内外から人を惹きつけ、市民の誇りとなる施設を目指してまいります。 3.青葉山エリアは豊かな自然に恵まれるとともに文化、歴史、学術資源が集積し、大手門復元やこどもの屋内遊び場の整備といったプロジェクトも進行している、本市にとって象徴的な場所であり、本施設の整備を通じてこのエリアをさらに魅力的で多くの人を惹きつける場所とすることで、仙台のまち全体の活性化や都市ブランドの向上に貢献できるものと考えております。また、都心部も含めた回遊性を向上させるための様々な取組みも行ってまいります。 なお、仙台駅周辺での整備につきましては、敷地の確保が課題となるものと認識しております。例えば、旧さくらの跡地の敷地面積は現在の整備予定地の面積の1/3未満であり、本施設の立地場所としては広さが不足しております。	令和8年 3月16日
65	・懸念(事実ベース): 総事業費が約646億円規模まで増額している理解(整備費623億円+備品等23億円)。物価上昇で、今後も増額の可能性がある点。 ・懸念(評価・影響): 将来の運営費・維持更新費が増える局面で、財源は実質的に税負担に跳ねやすい。既に財政が厳しい中で、現役世代・将来世代の負担増(税負担・サービス削減)になる。 この音楽ホールができたことで観光客が増えるとは思えない。市民の利用も市民がより高齢化の中で利用が増えるとは思えない。そんな財源あるなら、若者や子育て世代への還元を増やすべき。 ・求めたいこと: 運営費・維持更新費の年次見込み(30年・50年など)と、その財源内訳は？ 物価上昇を踏まえた総事業費の上振れレンジ(幅)を、なぜ示さない/示さないのか？ 既存施設の改修や規模縮小など、代替案と費用対効果を同じ条件で比較した資料はあるか？ 市が述べる財源確保(企業版ふるさと納税・市債等)の見込み額と確度、不足時の対応は？ 今後さらに増額した場合の意思決定ルール(どこで立ち止まるか)は設定しているか？	運営費・維持更新費につきましては、年間約18億円を見込んでおります。その財源として、施設使用料収入・補助金等約2億円のほか、協賛金・寄付金などさらなる外部資金の獲得に努めることとしております。 物価上昇を踏まえた総事業費の上振れ幅や代替案との費用対効果の比較につきましては、様々な要素が複雑に関わってくるため具体的な金額のお示しは困難でございますが、ECI方式(実施設計段階で施工予定者を選定し、技術協力という形で施工業者のノウハウを活用する整備手法)を導入するなど、コスト削減に努めてまいります。 財源面につきましては、現時点で見込んでいる市債額は476億円であり、今後はさらなる地方交付税措置のある地方債の活用や、活用可能な国の財源の検討、企業版ふるさと納税など外部資金の確保を進めることで、本市の財政負担の軽減を図り、整備状況を丁寧に説明しながら整備プロセスを進めてまいります。	令和8年 3月16日
66	仙台市に巨額の音楽ホールと、災害文化と称してする複合施設は不要。青葉山に作ってどの位の集客を見込んでいるのか？ 県の音楽ホールと同じ程度のものが必要とする後付けの災害文化は要らない。 この複合施設に付いて住民投票をして賛否を問うべきと考える。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴しました。宮城県・仙台市それぞれにおいて需要想定調査を実施し、新県民会館と本施設の双方に十分なニーズがあることも確認しております。 また、中心部震災メモリアル拠点については、2度にわたる検討委員会等で議論を重ね、「津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承する」との方針を定めました。沿岸部の拠点として、せんだい3.11メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校を先行して整備し、中心部の拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ、内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと複合整備することを決定したものです。 こうした経緯を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、複合施設の基本構想および基本計画を策定してきたところでございます。 年間来場者数の見込みは約54万人、うち県外来場者は約4万人と試算しており、魅力的なコンテンツの開発、新規の顧客を戦略的に増やしていく取組み、建築物の個性を生かす取組み等を行うとともに、青葉山エリア一体としての観光振興の取組みと連動していくことにより、更なる県外来場者の獲得を目指します。 引き続き、市民の皆様との対話の場を設けるなど、この施設についてのご理解の輪を広げることに取り組みながら、整備を進めてまいりたいと考えております。	令和8年 3月16日